社会に満足を。

ユニークなデザイン・発想による価値ある商品とサービスの創出

新しい価値を創造するために、一人ひとりが「挑戦と改革」の意識を持って「ユニークネス」を追求していきます。常に生活者の視点に立ち、ユニークな発想で美しく心地よい商品やサービスをデザインし、お客様に新たな利便性・安全性や楽しさなどの価値を提供します。

顧客満足に繋がる商品・サービスの展開

プラスグループは企業理念である「新しい価値で、新しい満足を。」を具現化し、日々の事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していくことが使命だと考えています。私たちが大切にしていることは、お客様の満足です。何よりもお客様を重視し、常に「生活者視点」に立って物事を考え、モノづくりを行っています。

SATELLITE CRAYON PROJECT「海のクレヨン」コラボ商品「海の万年筆」

セーラー万年筆株式会社
開発本部 企画開発部
企画開発課
中井 花音

「海の万年筆」は、SATELLITE CRAYON PROJECTから発売されている「海のクレヨン」とのコラボ商品として2025年6月に発売しました。SATELLITE CRAYON PROJECTとは、スカパーJSAT株式会社が2022年に立ち上げた、人工衛星から見た地球の色を扱うカラーブランドで、クレヨンを通じて地球の色の豊かさを伝えるとともに、地球に興味を持ってもらい、好きになってもらうことを目的に「海のクレヨン」を発売。世界三大デザイン賞をはじめ、「グッドデザイン賞」や「日本文具大賞」など、国内外でさまざまな賞を受賞しています。

「海の万年筆」は、「海のクレヨン」12色の中から、バハマのエルーセラ島西部の海を再現した「Eleuthera Island」、日本の奄美大島の海の色である「Amami Oshima」、黒海の北端アゾフ海の西岸に広がる浅い干潟の腐海を再現した「Syvash」の3色を選定し、万年筆とインクに落とし込みました。

SATELLITE CRAYON PROJECT では売上の一部を災害基金などの寄付に充てていますが、これに加えて当社独自の取り組みとして、売上の一部を広島県の海を守るプロジェクト「GSHIP」へ寄付し、海洋プラスチックごみ削減のための活動に貢献していきます。

海の万年筆

「第18回キッズデザイン賞」を5製品が受賞

プラス株式会社は、超軽量とランドセル特有の“カブセ”をなくしたフルオープン式の独自設計により、小学生の通学と支度のしやすさに配慮した軽・開（けいかい）ランドセル「パッかる」を発売しました。小学生の毎日の生活や気持ちに寄り添い、文具開発で培った視点から、軽さだけではない機能・使い勝手を追求した全く新しい通学カバンです。2024年度は軽・開ランドセル「パッかる」を含めて5製品が「第18回キッズデザイン賞」を受賞しました。

キッズデザイン賞受賞
KIDS DESIGN AWARD 2024

新たな働き方の支援

オフィス環境の提案は、その企業の事業内容はもちろん、業務の流れ、人の動きといった効率性だけではなく、企業ポリシーや社風、対外イメージやブランディングといった企業の姿、フィロソフィーの部分まで理解し、お客様の思う「理想の姿」をオフィスという「カタチ」にする壮大なプロジェクトです。

プラス株式会社は長年「人」にフォーカスしたオフィスづくりを行ってきました。多様化するお客様のニーズに対し、人にとって「イゴコチ」のいいオフィスとは何かを常に追求しながら、お客様の想いをカタチにする商品開発や空間設計を行っています。

企業の未来を育む、唯一無二の「イゴコチ」を

プラス株式会社
ファニチャーカンパニー
営業本部 クリエイティブ事業部
企画推進部
辻井 耕太郎

働き方の多様化や働く場の拡張とともにオフィスの在り方が問われる現代においても、社員が集うオフィスは、企業が価値を創造するために重要な基盤であると考えます。そのため私たちは設計者として、社員がオフィスに出社したくなるように、そしてオフィスの中で快適に過ごせるように、「イゴコチ」のいいオフィスを設計することを日々心がけています。

しかし、「イゴコチ」には画一的な解はなく、それぞれの企業、そして社員一人ひとりに最適な「イゴコチ」があります。私たちはお客様それぞれにとっての唯一無二の「イゴコチ」を見つけるため、ある時はヒアリングやワークショップなど密なコミュニケーションを通してお客様と同じ視点に立ち、またある時はセンシング技術などを活用した調査・分析によるプロフェッショナルの視点を持つなど、さまざまな視点からお客様の求める「イゴコチ」を探します。そこに、お客様の期待を超えるアイデアを加えていくのです。

私が担当したプライフーズ株式会社ゴーデックスカンパニー様の新社屋プロジェクトでは、工場での旧態依然とした働き方の改革を目標に、効率的に働くことだけでなく、プロジェクトチームの方々とともに考えた、学ぶ・交わるといった新たな行動を取り入れた働き方をご提案し、ワークスペース以外にもライブラリーやカフェなど多様な設えを取り入れたオフィスを構築しました。これにより、コミュニケーションの活性化やモチベーションの向上などの効果が生まれ、「イゴコチ」のいいオフィスを実現することができました。

新しい物流モデルの創造

プラス ロジスティクス株式会社では、ノンアセット型※の事業展開の中で、センター運営から配送までの物流スキームをお客様ごとにカスタマイズして構築し、運用しています。また、プラスカーゴサービス株式会社とタウンサービス株式会社は、全国各地の地場に強い配送会社とのネットワークを活かして、お客様の荷物やビジネス特性に合わせたお届け方法や付帯業務サービスをご提案します。「物流をデザインする物流設計企業」として、今後も固定観念にとらわれない自由な発想をもち、お客様の課題を物流サービスで解決していきます。

※自社の設備（倉庫、車両など）を保有しないこと。

多様な荷主を支えるシェア型物流拠点「三芳センター」で実現する最適物流

プラス ロジスティクス株式会社の三芳センターは、物流業務を受託しているさまざまな荷主企業の物流拠点として「倉庫シェアリング型」での運用を行っています。庫内スタッフや配送など物流において重複する部分を効率化し、荷物量や作業の増減にも柔軟に対応が可能で、各荷主企業に対して最適化した物流サービスを提供しています。なお同センターにはプラス カーゴサービス株式会社のTC※を併設し、近隣エリアの配送機能を集約することで輸配送効率の向上やコストの適正化を図っています。

※在庫を保管せず、荷物を仕分けてすぐに配送する通過型物流センター（トランスファーセンター）